

<R6年度 栃窪小学校 国際科 評価>

○指導の重点

英語活動を通してコミュニケーション能力を高めたり、自国や他国の良さに気付いたりする中で、心豊かでたくましい児童を育成する。

○学校評価より

	評価項目	(評価方法)・評価基準	評価
成 果	(1) いろいろな人(友達や外国の人)と英語を使ってコミュニケーションを図ることが好きになる。 (2) 国際交流会等、外国の人々と関わる活動を通して、自国や他国の文化・伝統などを調べることが好きになる。	(児童・保護者アンケートより) A: 肯定的評価が80%以上 B: 肯定的評価が65%以上	児童 (1) B 69.2% (2) B 84.6 % 保護者 (1) (2) 共通 B 76.9%
教 育 活 動	(1) ゲームやインタビューなど、ねらいに応じたコミュニケーション活動(アクティビティー)を取り入れることができたか。 (2) 歴史や文化など、各国の特徴的な内容を取り上げ、外国や日本の違い、よさを感じさせることができた。	(担任) A: 実施した。 B: 実施できなかった。	担任 A
運 営 活 動	(1) 各担任がALTとの打ち合わせの時間を確実に確保し、活動内容を検討する。 (2) 外国の人と交流する機会を設ける。	(担任) A: 直接打ち合わせができた、 交流の機会を設けることができた B: 直接打ち合わせ、交流の機会を設けることができなかった。	担任 A

<考察>

(1) について、肯定的評価は児童 69.2%、保護者 76.9%で B 評価でした。特に低学年において、英語が外国の人との交流に不安を感じている児童が多く見られた。児童が前向きにコミュニケーションを図ることができるために、正確な英語のやりとりにとらわれず進んで関わろうとする姿勢を育んでいく必要がある。教育活動を計画する際に、英語の発音や文法の正誤にこだわらず、コミュニケーションを楽しむ姿勢を育てていけるように計画する必要がある。

(2) について、ほとんどの児童から国際交流に対して前向きな姿勢が見られた。国際交流会や、外国からの体験入学児童との関わりを通して、様々な国の文化や伝統へのよさや面白さを感じる児童が多かった。今後も外国の人との関わり、他国の文化や伝統に触れる機会の充実を進めていく。